

日本の主要な国際拠点空港である中部国際空港（以下、「セントレア」）は、空港を利用するすべての人々が安全で安心かつ快適だと感じられるよう、空港島全体でさまざまな事業や活動に取り組んでいます。

新しい角度でセントレアの魅力を発見し、また、訪れた際にいつもとは違うセントレアに触れていただけるようシリーズでご紹介しています。

（文責事務局）

第2回 地域と共生する空港島を目指して

1. 地元農業高校と共同育成するグリーンカーテン

中部国際空港株式会社（以下、「空港会社」）は基本理念のひとつに「地域に根づいた企業として、環境への配慮に努め、豊かな地域社会づくりに貢献する」という文言を掲げている。前号で紹介したように、空港会社は2005年のセントレア開港前から「環境への配慮」をコンセプトとして打ち出し、環境への負荷軽減に効果をもたらすさまざまな設備を整備・導入してきた。それと同時に、地域社会と連携しながら、さまざまな活動を推進してきた。

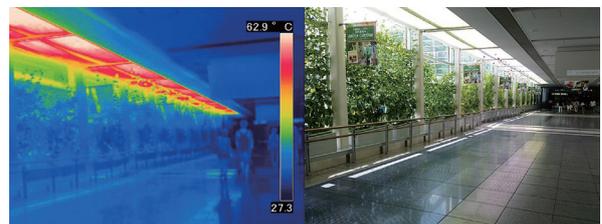
その代表的な事例が、愛知県立半田農業高等学校（以下、「半田農業高校」）の学生とともに2012年から取り組んでいる「グリーンカーテン共同育成活動」である。これは、第1ターミナルビルの連絡通路南側のガラス面に3月から10月末までパッションフルーツを用いた「グリーンカーテン」を設置するもので、夏場の日差し対策などを主目的としている。

2012年以前は、空港会社が独自にゴーヤを用いたグリーンカーテンづくりを試みていたのだが、なかなかうまく育成しなかった。方法を模索する培養土の開発中で、セントレアから東へ10数キロに位置する半田農業高校に協力を要請したところ快諾され、連携することになった。半田農業高校からは、ゴーヤに代わりパッションフルーツの導入を提案され、これを採用したものである。

グリーンカーテンに使用しているのは、半田農業高校で挿し木により繁殖したパッションフルーツ

苗である。学生はこの取り組みのために培養土の開発、開花に適切な時期の設置、グリーンカーテンのメンテナンスなども行っており、空港施設内であることに配慮し、匂いがこもらないように有機肥料を使わないなどの工夫もしている。

グリーンカーテン設置場所の天井のガラス面は、夏場には蓄熱もあって60℃以上にもなるが、内側は28℃に抑えられており、高い効果が得られた。また、遮熱だけでなくグリーンカーテンを彩る花や



図表 1-1 グリーンカーテンの効果



図表 1-2 栽培の主な工夫 苗の選択

果実は癒しの空間の演出にも一役買っており、さらに年間300個以上も収穫されるパッションフルーツは、空港内のレストラン「アリスダイニング」で料理に使用されている。2018年には、レストランと半田農業高校の生徒が共同でオリジナルメニューを考案し、利用者に提供した。なお、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、レストランでお客様に提供することはできなかったが、その代わりに、空港会社の社員などに提供するデリバリーのデザートとして活用している。

また、愛知県民にエコライフを提唱する「あいちエコチャレンジ21」の一環として、グリーンカーテンの優秀事例を表彰する「あいち緑のカーテンコンテスト」において、2015・2016年度の2年連続で事業所部門最優秀賞を受賞した。さらに、2019年度には公益財団法人都市緑化機構が主催する「第18回屋上・壁面緑化技術コンクール」において奨励賞を受賞した。

2. 屋内緑化で愛知県の花をPR

空港会社では環境活動で連携する自治体や学校、企業等のこと、あるいは連携による環境活動のことを「環境パートナーシップ」と称している。4つの柱からなるセントレアグループの環境方針の1つにも「環境パートナーシップをはぐくみます」とうたい、「環境情報の発信に努め、地域社会とのコミュニケーションを図るとともに、空港内の事業者と協力して環境活動を推進し、環境の保全に努めます」と、行動の指針を示している。

地域との連携による取り組みには、ターミナルビルでの屋内緑化が挙げられる。愛知県は国内最大の花きの生産地であり、セントレアは花きの輸出拠点となっているが、屋内緑化は利用者の目を楽しませるとともに、愛知県産の花きを広く紹介する機会にもなっている。

愛知県では2013年より暮らしの中に花を取り入れる「花いっぱい県民運動」を展開している。空港会社もこれに賛同し、第1ターミナルビルで「今月のあいちの花」を展示するなど、空港内各所に



図表 2-1 セントレアの花と緑の装飾



図表 2-2 「今月のあいちの花」を展示

花の装飾を施してきた。これにより、2017年には空港会社が「花の王国あいちサポート企業」に認定されている。2020年度には、愛知県が推進する「公共施設等における花きの活用拡大支援事業」にも参画した。

3. 子どもたちが空港に親しむ社会見学

地域とのコミュニケーションでは、小学生を対象とした社会見学がある。これは、学校教育への貢献と「地域や子供たちから愛される空港」を目指すための取り組みで、開港当初から実施してきた。対象は小学校3年生から6年生までの児童、特別支援学校（学級）の児童および生徒で、13のコースが用意されている（図表3-1）。

コースは、ターミナルビルの各所を巡りながら空港の機能やユニバーサルデザインについて紹介する「ターミナルビル基本コース」をはじめ、ほかにも空港島内の業者や機関の協力による特色のあるコースが設定されている。

例えば「海上保安庁コース」は、海上保安庁が管轄する中部空港海上保安航空基地を見学す

図表 3-1 セントレアの社会見学コース

コース名	コース内容概要
ターミナルビル基本コース	空港内施設やユニバーサルデザインの紹介など、セントレアを自分の足でまるとして実体感できるコース。またスカイデッキから航空機の迫力ある離発着などを見学。
管制コース	空港のシンボル、管制塔に出かけ勉強するコース。飛行機が安全に飛べるように、日夜、空の交通整理をしている管制官の仕事などについて説明を聞く。 協力:国土交通省大阪航空局中部空港事務所
海上保安庁コース	海上の警察であり、消防でもある人命救助のスペシャリストである海上保安庁の仕事、実際に救助の様子を体験したり、場合によっては救難救助ヘリを見学できたりもする体験型のコース。 協力:海上保安庁中部空港海上保安航空基地
空港で働く人コース 航空整備士コース	航空機を安全・定時に運行させるための航空整備の「最後の砦」ともいわれるライン整備を担う整備士の仕事や航空機について勉強するコース。使われていた航空機部品や整備士の道具に触ることができる。 協力:ANA中部空港株式会社
空港で働く人コース グランドスタッフコース	空港は空の玄関口。カウンターや搭乗口でお客様の快適な空の旅を全力でサポートするグランドスタッフのお仕事を紹介するコース。 協力:株式会社ドリームスカイ名古屋
空港で働く人コース 動物検疫・植物防疫コース	外国から持ち込まれる肉や果物などについてくる動物や植物の病気や虫が国内に入るのを防いで、日本にいる動物や植物を守っている動物検疫所と植物検疫所の仕事について勉強するコース。 協力:農林水産省 動物検疫所・植物防疫所
空港警察コース	さまざまな人が行きかう場所である空港で奮闘する警察官の仕事について勉強するコース。 協力:愛知県中部空港警察署
航空気象コース	飛行機がより安全に、快適に飛ぶために必要な気象の情報を常に提供している気象台の実際の仕事場で説明を聞きながら、気象台の仕事や飛行機の安全と気象の関係について勉強するコース。 協力:気象庁中部航空地方気象台
税関コース	輸入品に対する税金の徴収や私たちの生活を脅かすような品物(麻薬やけん銃など)の密輸入の取締りを行っている税関の仕事勉強するコース。実際に海外旅行に行くときにしか入れない出国ロビーを見学することができる。 協力:財務省中部空港税関支署
環境コース	飛行機や空港から出されたゴミはどこに行くのでしょうか?誰が処理しますか?セントレアのリサイクルセンターに出かけ、分別リサイクルの様子を見学しゴミ処理の実際を勉強するコース。 協力:サンエイ株式会社
働く車・貨物上屋見学コース	飛行機が安全に運航するために、空港で活躍する「働く車」達を紹介。さらに、一般の人は入れない貨物地区に出かけ、車窓から貨物の秘密を勉強するコース。 協力:中部スカイサポート株式会社
消防コース	実際に消防服を着たり、ホースで水を放水したりの体験型コース。また、空港消防所にしかない大型化学消防車などが見学できる。 協力:一般財団法人航空保安協会
飛行機なるほどコース	とても重い飛行機がなぜ飛べるのか?など飛行機の秘密についての勉強や、セントレアに飛んでくるいろいろな飛行機の紹介もあり、飛行機に一層興味が湧くコース。

出所:空港会社ホームページ「コース紹介-社会見学」を参照し、当財団が作成

るコースで、救難救助ヘリが間近に見られることもある。「環境コース」は、飛行機や空港から排出されるゴミを分別しリサイクルする「リサイクルセンター」（前号掲載）の見学を中心としたもので、環境教育の一助となっている。「消防コース」は、セントレアで火災が発生した場合に消火活動を担う空港消防所に行き、消防服の着用やホースを用いての放水体験や、空港にしかない特殊な大型化学消防車を見学するなど、空港に関わる仕事が1つ1つのコースになっている。

学習内容は、各学校の学習ニーズに応え、空港概要のほかにも「働く人」や「飛行機の乗り方」などを案内し、復習教材として「セントレアキッズブック」を活用している。また、コースごとにそれぞれの施設での見学や体験をすることができる。2005年の開港から2019年度までの累計で、1,939校、114,826人の児童が学んでいる。2019年度は年度末の新型コロナウイルス感染拡大によ

り、受け入れ状況は2018年度より減少した（図表3-7）。現在、社会見学は受け入れを中止しているが、学校からの要望もあり、新たな社会見学のあり方を模索中とのことで、早期の再開を期待する。

このほか、夏休みには「中部国際空港を核とした知多地域振興協議会」と「中部国際空港海部地区連絡会」により、親子でセントレアを楽しく学んでもらうため、セントレアの所在する知多地域と



図表 3-4 海上保安庁コース



図表 3-2 ターミナルビル基本コース



図表 3-5 消防コース



図表 3-3 環境コース



図表 3-6 セントレアキッズブック

図表 3-7 社会見学の受け入れ状況

地域別		2018年度		2019年度	
		学校数 (校)	児童数 (人)	学校数 (校)	児童数 (人)
愛知県	知多5市5町	11	477	7	414
	名古屋市	33	2,577	31	2,592
	そのほか	30	2,223	16	1,038
愛知県		74	5,277	54	4,044
岐阜県		4	66	6	279
三重県		3	46	5	108
そのほか		6	458	7	551
合計		87	5,847	72	4,982

出所：空港会社「Centrair Green Report2019」および取材時に入手したデータより当財団が作成

海部地区の小学3年生～4年生を対象にした「セントレア親子サマースクール」を2012年より開催している。飛行機の飛ぶしくみを学んだり、旅客ターミナルビルの見学をするコースや、税関の知識を学んだり、麻薬探知犬のデモンストレーションや国際線の制限エリアを見学するコースなどがあり、1回に20組の親子（40名）を1日2コース、5日間開催するが、抽選になるほど人気のある事業となっている。また、2017年にはウインタースクール（2日間）も開催した。

社会見学やセントレア親子サマースクールなどで案内を担うのは、空港利用者をサポートするため、セントレアの開港時から採用している「セントレア案内ボランティアスタッフ」である。今では成田国際空港や関西国際空港などでも活動しているボランティアだが、セントレアが開港した時にはそのような活動はなく、全国の空港で初めての取り組みとして、愛知県国際交流協会の支援を受けてスタートした。現在は学生から80代まで約300人が登録されており、主要業務は出発・到着ロビーやアクセスプラザでの案内などを行っている。そのうち社会見学などを担当するボランティアは、空港会社のテストに合格した約45人となっている。

このほか、過去には空港会社と親交があった地域で、セントレアから遠隔地にある長野県木曾町、三重県熊野市、岐阜県郡上市にスタッフが赴き「セントレア出前教室」の開催実績もある。

4. イベントや連携で地域の活性化に参加

空港会社は、地域で開催されるイベントの受け入れや参加にも積極的で、常滑市や知多半島の地元企業として存在感を示してきた。

セントレアが関係する代表的なイベントとして、常滑市、知多市、東海市を会場とする「アイアンマン70.3セントレア知多半島ジャパン」が毎年6月に開催されている。これは、スイム1.9km、バイク90.1km、ラン21.1kmの合計113.1km（70.3マイル）による国際規格のトライアスロン大会で、2010年より始まった。

同大会は以前、他県で開催されていたが、その会場が使用できなくなったことから、運営会社が新たな開催地を探していたところ、ちょうど開港5周年の記念行事を企図していた空港会社が常滑市とともに誘致に乗り出し、実現したものである。スポーツと観光の振興により地域の活性化を図ることを目的に、セントレア開港5周年記念行事の一環として2010年9月19日に常滑市で第1回大会が開催された。第1回には、日本のトライアスロン大会では初めて空港島がコースに組み込まれ、話題を集めた。また、エキスポ（トライアスロンの紹介展示や物品販売のイベント）やアワードパーティーは、例年セントレア内で開催されている。会場はその後、半田市と知多市にも拡大した。

約1,500名の人々が参加するイベントとなっており、海外からは100名くらいの人々が参加している。海外

からの参加者は多くは飛行機で来日するが、空港近くで開催する大会のため、来日してから開催場所までの移動がスムーズにできるなど、利便性が良い。また、海外からの参加者だけでなく、国内で遠方より参加する人にとっても、国内線もあるセントレアは利便性が良い。大会が近くなってくると、空港付近のホテルに滞在している人たちが、ジョギングする光景が見られるらしい。

なお、2020年度はコロナ禍により中止の声も上がったが、こんな時期だからこそ地域を盛り上げるためにも開催を、という関係者の熱意から開催することになった。このため、時期を6月から10月に変更するとともに、コースを知多市内に限定した。参加者への事前説明会はwebで行い、スタート時間も分散するなど感染防止策を取り、関係団体や参加者の理解・協力も得られ開催することができた。参加者からは、いろいろなイベントが中止になっている中、参加することができて楽しかったという感想もあった。

また、知多半島で開催される各種のイベントにも、開港当初から積極的に協力してきた。毎年10月に開催されている常滑焼まつりでは、ターミナルビル内にPRコーナーを設け、ポスターの掲示や子ども向けのゲームなどを行ってきた。2013年から知多半島5市5町で1年おきに開催されている「知多半島春の国際音楽祭」では、ターミナルビル内での催しを「セントレア空港音楽祭」と題して開催している。

5. 産学連携による学びの場の創出

冒頭で半田農業高校との連携事例を取り上げたが、このほかにも愛知淑徳大学、金城学院大学、椋山女学園大学、南山大学、日本福祉大学、名城大学、専門学校HAL名古屋と、さまざまな面での産学連携に取り組んでいる。このうち、金城学院大学および日本福祉大学とは包括連携協定を結んでいる。

一例として、知多半島にキャンパスを置く日本福祉大学との連携実績を挙げておく。同大学とは

セントレアに一番近い大学として積極的に連携を取るべく2015年12月に協定を締結し、翌年には、空港内の貸会議室を「セントレアサテライト」とし、以後、空港関係者や空港およびりんくうエリアでビジネスを展開する企業や福祉施設の担当者を講師に招いた集中講義「グローバルキャリアセミナー」を毎年開講している。2020年は、コロナ禍のためwebで講演することとなったが、継続して学生に講義を行うことができた。

同大学では特に国際福祉開発学部の学生による活動が活発である。1つは空港直結の「セントレアホテル」におけるインターンシップ事業で、利用者の過半数は外国人であることから、実践的な語学力や国際的に通用するビジネスマナーを身に付ける効果が得られている。また、前述の「アイアンマン70.3セントレア知多半島ジャパン」での通訳ボランティア、毎夏恒例の「セントレア盆踊り大会」への参加、空港での新入生セミナーの開催なども実施してきており、セントレアを社会勉強やスキルアップ、交流の場として存分に活用している。国際福祉開発学部のほかにも、経済学部は地域研究の授業の一環として、学生がセントレアでアンケート調査実習を行ったこともある。

こうした事業は、空港関連の業界への就職を希望する学生の理解を深め、就職活動支援につながっている。同大学では現場見学や企業訪問をする「中部国際空港プレミアムツアー」も開催してきた。

また、中部国際空港利用促進協議会が、学生のうちにしかできない海外での貴重な体験を伝えることにより海外への渡航を促進するとともに、航空業界を身近に感じてもらえるよう、航空会社や旅行会社と大学をつなぐ産学連携事業を行なっている。

このような産学連携は、空港側にとっても、若い世代のニーズを探り、企画のヒントを得る貴重な機会になっていると考えている。

そのほかの大学との産学連携の概要は空港会社のホームページから情報を得ることができる。

6. 地域と共生する空港島を目指してのご担当者の感想

最後に、今回の取材にご協力いただいた空港会社地域共生部地域連携グループ長の重田智啓氏、同グループの後藤かおり氏、総務部総務グループ担当課長の森雄介氏から業務をご担当されているの感想を伺ったので紹介する。



左から 重田智啓氏、後藤かおり氏、森雄介氏

総務部総務グループ 森 雄介氏

セントレアでは、皆様に安心して空港をご利用いただけるように、さまざまな新型コロナウイルス感染症対策の取り組みを行っております。まだ海外との

往来は限定的な状況ですが、早くこの感染症が収束し、セントレアにも早く以前のにぎわいが戻ることを願っております。

地域共生部 地域連携グループ 重田 智啓氏

中部国際空港セントレアは地域の皆様に支えられて開港15周年を迎えました。新型コロナウイルス感染症拡大の影響でお客様が少ない状況は続いておりますが、引き続き安心・安全に空港をご利用いただけるよう、さまざまな取り組みを行ってまいります。

地域共生部 地域連携グループ 後藤 かおり氏

皆様に愛される空港を目指し、開港後より社会見学事業を行って参りました。見学いただいたお子様は延べ114,826名となり、中には過去に社会見学に参加した当社社員も多数おります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で事業中止を余儀なくされておりますが、現在、Withコロナにおいても安心安全に行える新しい社会見学を検討しております。未来を担う、子供達の笑顔であふれるような空港を目指し、引き続き、さまざまな取り組みを行って参ります。